

【分野】 果 樹

巨峰系4倍体ブドウのS-ABA剤による着色促進

【要約】

県内のブドウ主要品種である「ピオーネ」や「オーロラブラック」など巨峰系4倍体品種の着色促進技術を開発しました。

【背景】

近年、高温などの気象要因の影響により、ブドウの着色不良が顕在化しています。そこで、県内の主要品種である「ピオーネ」や「オーロラブラック」等、巨峰系4倍体品種の着色不良の対策技術の開発に取り組みました。

【結果】

1 S-ABA液剤の果房散布による着色促進

黒色系の「ピオーネ」や「オーロラブラック」、赤色系の「安芸クイーン」や「クイーンニーナ」において、着色始期に植物生育調節剤であるS-ABA液剤（商品名：アブサップ液剤）を果房に散布すると、果実品質を大きく損ねることなく着色が促進されました（図1）。「ピオーネ」では、S-ABA処理を行った果房は果粒が軟化してから9週間以上経過すると果肉が軟らかい傾向がみられたため、取り遅れないように注意する必要があります。

2 適切な散布量について

S-ABA液剤を散布した果房では、果面の汚れや果粉の溶脱を生じやすいため、散布する場合は霧の細かい噴霧器を使用するとともに、1果房当たりの散布量を5ml程度とし、必要以上に薬液が果房にかからないよう注意する必要があります。

3 S-ABA液剤の増益効果

「ピオーネ」及び「オーロラブラック」において、無核化肥大処理の満開期一回処理（GA25ppm+F10ppm）、副梢放任管理にS-ABA処理を組み合わせ栽培し、市場性及び経済性を評価したところ、組合せ処理によって秀品率が向上し、販売金額が「ピオーネ」では最大約13%、「オーロラブラック」では約25%増加すると推定されました。



図1 S-ABA処理による「ピオーネ」、「オーロラブラック」、「安芸クイーン」の着色促進効果

※左:「ピオーネ」、中:「オーロラブラック」、右:「安芸クイーン」

※各品種ともに上:S-ABA処理、下:無処理

担当：農業研究所 果樹研究室 (086-955-0276)

研究課題名：「オーロラブラック」のブランド力強化を目指したプレミアム果実生産技術の確立 (H29~R1)

「ピオーネ」及び「オーロラブラック」の着色安定化技術の開発 (R2~4)

県内ブドウ主要品種におけるS-ABA処理の適用性の検討 (R7)